

環境教育

委員：岡本（リーダー）、島（サブリーダー）、梶野、船本、南垣内、[黒飛]
事務局員：村井、吉留

[]は当日欠席委員

<現状などについて>

- ・ 3. 11があり、個々人の思いはいろいろ変わったが、環境教育の分野としての概要（骨格）は変わっていない。天災は防ぎようがないし、環境教育の内容面で伝えることは変わらない。
- ・ 子どもを対象とした環境教育だけでなく、市民全体の大人も含めた環境教育が手薄になっていることが感じられる。

<アンケート結果から>

- ・ 7ページ「満足度と重要度の関係分析」相関図において、満足度も重要度も低いもの（左下の枠内）の中には、「自然とのふれあいの場」「生き物の種類の多さ」「地域・学校での環境学習」「環境教育関連情報の提供」など環境教育関連のものがほとんど入っている。このことから、市民の環境教育への意識は、重要度が低く関心も低いことがわかる。これが現状であることを認識し、市民の意識の低さを改善していくことが求められている。そのためには、市民の環境に対する意識を重要だと感じてもらえるように上げていく仕組みが必要である。

- ・ 回答者は、無職や50歳以上の人が多いことから、年配の方の意見が多く反映された結果だと考えられる。若いお母さんは学校や地域での環境学習に関心があると思うが、他の年代の人は、そのような場に触れる機会が少ないので関心が低いのだと思われる。そのような人たちの関心をどのように高めるかということが課題である。

- ・ 15ページ「年齢別で見る環境保全活動への市民参加の思い」において、“積極的に参加したいと思う”と“関心のある活動には参加したいと思う”の合計が、18～19歳では60%近くを占めており、その後20歳代以降は20～30%となっている。このことから、若い人たちは非常に関心があり参加する余裕もあると思われるが、仕事などを始めると時間がないため参加する機会が減少していることがうかがえる。参加する機会を増やすことが求められる。

<分野別将来像の検討について>

- ・ 環境への関心はあるものの、時間がなくて参加できないという人が多い。また環境が日常生活とかけ離れたハードルの高いものだという意識もあるのかもしれない。そのハードルを下げる必要がある。実践する場として、家庭や地域など身近な所で、気軽に参加できるものが必要。
- ・ 学校など子どもの教育の場だけでなく、地域における環境教育が重要だと思う。市（行政）と自治会の間をつなぐ、環境教育を伝達する人づくりが必要。例えば、環境教育専門の民生委員のようなもの。

・環境活動に参加したいという夢のある若者が少なくなっている気がする。市民一人ひとりが積極的でないのが現状で、自分から学ぶ姿勢や自分が主体となって意見を言ったり行動できる人づくりが必要。

・市民の多くは環境への意識は持っているが、具体的な行動につながらない。具体的な行動につなげるためには、行政の主導が必要。環境教育の場などはたくさんあるが、市民の方に参加してもらうのが難しいので、行政の力が必要。意識を向上させ、市民全員巻き込めるような仕組みになればいい。

⇒・イベントや講座などに参加する人がほぼ固定されている状況。それ以外の人たちの参加が求められる。

⇒・アンケート結果で、「おしきせになってイヤになったことがあるので参加したいとは思わない」という意見があったので、参加するかどうかは自由でないと、強制になってしまっはいけない。

・退職した人たちは、知識や経験が豊富なので、その人たちに学ぶような、参加型の環境教育講座などがあればいい。

・地域で参加できる環境学習の充実や、意識を高め身近な所で考えていける人づくりが重要。参加しようと思えばできるものはたくさんあるが、知らないことが多かったり、近くにないなど…。地域（自治会）で、環境教育を進める人材育成が必要。

自然・歴史	委員：井上 ^雅 （リーダー）、岡野（サブリーダー）、中川、日月、横田、 横山、[伊藤] 事務局員：桐山、平野 []は当日欠席委員
-------	---

<リーダー・サブリーダーの交代について>

井上委員が全体代表に、岡野委員が全体副代表に選任されたことに伴い、分科会のリーダー・サブリーダーを交代するかどうかについて話し合った。

・どういう経緯で全体の代表・副代表に決まったのか分からないが、分科会との兼務に支障はないのではないか。

・これまで通りお願いします。

以上のような意見が出され、これまで通り、リーダー：井上委員、サブリーダー：岡野委員で継続することで一同了解した。

<分野別将来像の検討について>

3. 1 1 を経て、将来像等に変化があるかなどについて、以下の意見が出された。

・（自然・歴史分科会ということだけでなく）災害に備えるまちづくりを優先順位のトップに挙げるべき。3. 1 1 を経てそれを盛り込まないような環境基本計画は他都市に笑われる。

・3. 1 1 を経ても基本的な考え方は変わらない。

こういう奈良にしたい、ということと、現状がこうだから（震災が起こったから）こうすべき、ということは、分けて考えるべき。

・文化財の保護について重点化する。自然分野では考えの変化はない。

・震災の影響か、薬師寺の解体工事の準備が未だ進んでいない。

・奈良にはこれまで災害がほとんどなかった。奈良の人は古都を守る意識が強い。次の世代に残すための具体的な対策が必要。

・自分は知識はないが人脈はある。また企画力がある。皆さんの考えを広めることができる。

・自然・歴史分科会に、災害対策を盛り込むのは少し違うという気がする。

・放射能は、文化財というよりも自然・生物がだめになる。生物多様性という観点からは原発はないほうがよい。文化財保護につよい(?) まち、というのは、夢・将来像としては良いのでは。

- ・天災・人災につよいまちを強調すべき。

それぞれ自分がこうなってほしいと思う将来像を描くことで宿題はできるのではないか。締切日までに提出よろしくお願いします。

生活環境	委員：瀬林（リーダー）、栗岡（サブリーダー）、池田、井上 ^幹 、橋本、小松、 [矢藤] 事務局員：新井、杉田 []は当日欠席委員
------	---

- ・昔から原発反対だったが、主張したことがなかったし、言えなかった。しかし、このように主張してこなかったことが国や電力会社を増長させたと思われ、反省している。
- ・これまでペットボトルを買わないように努めてきたが、今回の東日本大震災で、関東に送るため買わざるをえなかった。今までの環境活動を覆され悔しい。
- ・可能ならば、原子力に頼らない低炭素型社会にしたいという文言を入れてほしい。
- ・アンケートについては、回答数が少ない中方向性を決めるのはよくないと考えており、大きく期待していなかったが、今回のアンケートでは約 50%の回答数が得られ、内容及び分析も非常に良かったと思う。
- ・原子力発電を前提に温室効果ガス排出量の削減目標を 25%としていたが、今回の東日本大震災で削減目標が変わる可能性が大きい。環境問題を考えるうえで、基幹部分が変わってしまったので、これまでの内容を見直し、地震のことを前提にして付け加えていってはいか？
 - これに対し、生活環境の分野では地震があったことで変わることはないのではないか？という意見もあった。エネルギー＝原発ということが反対だからといってペットボトルどんどん使おうということにはならない。方向性は変わらないのでは？生活まで変えないといけないのか？
 - 地球温暖化及び都市環境分科会では、内容変わるかもしれないが、生活環境では変わることもあまりないのでは？
 - 今回の地震を前提に考えるのではなく、今後起こる可能性のある東南海地震を想定し、奈良市としてはどう対策するかという観点で考えていきたい。
 - 原発には反対だが、今回の地震における原発の問題は原子炉自体が古く、欠陥部分があったことが一つの原因であったようなので・・・。
- ・阪神大震災の際、行政の立場からの経験談として、震災後の環境問題では一つに「災害に強い都市環境づくり」、もう一つに「環境に配慮した都市環境づくり」という目標を掲げた。その中で、水の問題として災害時に使えるように都市の井戸水の数及び水質を調査し、井戸水のマッピングを行った。また、空港の滑走路の下に水を貯蔵できることから、飛行場が必要だという要請も行った。「災害に強い都市環境づくり」というのは難しかったが、上述のような行動をおこし、「災害に配慮した都市環境づくり」を目指した。

○事務局より、次回の分科会まで期間があくので、環境清美工場の中を見学にっては？という提案があった。

→環境清美工場だけでなく、大安寺のリサイクル施設も見学したい。

→奈良市のごみの基本処理計画の中では、ごみを効率的に燃やすとしかいっておらず、バイオマスやメタン発酵といった処理内容はっていない。見学よりもごみの基本処理計画を皆に読んでもらっては？

→プラスチックの排出量が平成 17 年度に激減しており、これはリサイクル協会の規格に合わなかったため、処理してもらえなかったからだが、こんな無駄なことはない。現在コスト的にも効率よく処理できているか聞きたい。また、ごみの排出抑制も大事だが、効率よく処理できているのか？

→水の処理についても考えてほしい。

○事務局より、今後の提案として

・生活環境分科会の分野では、環境基本計画の 7 つの目標のうち「4. 健康に暮らせる生活環境を守るまち」と「5. 資源の循環的利用を図るまち」という部分にあたるので、これをもとに将来像を考えてもらいたい。おそらく一つではおさまらないだろう。

都市環境

委員：石田（リーダー）、向出、上市、河野、[北浦（サブリーダー）、三宅]
事務局員：油谷、松本
[]は当日欠席委員

<課題の整理について>

・アンケートの調査結果を見ると、道路環境や公共交通に関する意見が数多く挙がっている。これに関しては当分科会でも議論してきた事であるが、3. 11の事も考慮すると、どういったところが絡んでくるか？「安全と住みやすさ」は耐震化や道路整備の面で大きく絡む。景観に関しては以前のままで良い。この辺りを踏まえて、課題（や一部、問題解決の方向性）をもう一度整理したいと思う。

A.安全と住みやすさ

課題

「地球温暖化対策を考慮した、安全で住みやすいまちづくりを推進する必要がある」

↓

「地球温暖化対策と自然災害を考慮した.....必要がある」

問題解決の方向性（←第4回分科会ふりかえりシートからの意見）

※建築物の耐震性だけでなく、耐候性も追加する。

D.市街地緑化

課題

「景観と地球温暖化対策を考慮した市街地の緑化を行う必要がある」

↓

「景観と地球温暖化及び生態や動植物に配慮した、安全な市街地の緑化を行う必要がある」

E.農山間地域の都市機能と連携

課題

「農山間地域と市街地の互いの良さを活かした連携を深める必要がある」

↓

「農山間地域と.....を活かした連携で、安全性を高める必要がある」

<分野別将来像の検討について>

委員の意見など

・我々は現在、原発で作った電気に支えてもらっている。そこから離れていくような内容（生活に直結するような電気、水、ガス等は自給自足で賄う）を盛り込んでいくべき。脱原発を推進していく。

・あまりに現実と離れすぎた壮大な事を言うより、実際に出来そうな事（ソーラー発電の普及拡大など）から。期間も10年スパンくらいで考えるべき。

- ・震災やアンケートも踏まえて、都市環境分科会としては「道路」と「交通」を意識して将来像を描いていく。
- ・震災などが起こった際、避難所には電気、水などを自律的に供給できるような都市機能を充実させる。
- ・緊急時に大切なことが、平時にも必ずしも大切であるとは限らない。「震災が…」ということを広げだしたらキリがない。防災計画は別にある。(奈良市地域防災計画：市民安全課)これは、奈良市の環境基本計画。あくまで都市環境の一部として「防災」を捉える。5月30日以降の3回の分科会における環境調製会議に担当課が参加するので、そこでヒアリングする等して各関係課と調整すれば良い。

地球温暖化対策	委 員：北端（リーダー）、田川、清水、鶴保（サブリーダー）、植本、 松本、村木 事務局員：柴田、坂崎
---------	--

<サブリーダーの交代について>

田川委員の副代表選任に伴い、副代表は市民ワークショップ全体を見渡す必要があるため、同時に分科会のサブリーダーを兼ねるのは負担が大きいだろうということで、サブリーダーの交代を行った。

リーダー：北端委員 サブリーダー：鶴保委員

<3. 11をうけての意見>

・国が温室効果ガス排出削減として原子力発電所の新設というのは見直しもささやかれている中で25%削減というのはどうなるのだろうか？

奈良市としては、温暖化対策のキャッチコピーとしての削減量（積み上げは出来ないにしても）というのは必要なのではないだろうか？

- ・温室効果ガスの排出を抑制しなければならないということは変わらない
- ・国としては温室効果ガス排出量が増えるであろう、東日本での排出増加分は西日本で削減するという意気込みで行けばよいのではないか？その中で、奈良市として削減できるものは何であるのかを考えていかなければならない。
- ・エネルギーについては分散させなければならない、自然エネルギー等幅広く考えていく
- ・原子力発電に変わるエネルギーとして、下水処理施設でのメタン発酵で発電を行えば家庭用のエネルギーはまかなえると思う。

<分野別将来像の検討について>

- ・事務局が示した基本方向などは決まっているのか？
→条例の改正も視野に入れているのでこれにとらわれすぎることはないと考える。
- ・個々で理想像を考えるとバラバラになるのでは？
→バラバラの理想像を次回のワークショップでまとめていく。
- ・次回にいきなりみんなの理想像を見ても議論が進まないのでは、一度まとめて（一覧を作って）分科会で情報共有を行ってはどうか？
→事務局への提出をいただいた後、取りまとめて情報を返す段取りはしている。
昨年度に分科会内のアドレスは交換している（松本委員は交代の関係でしていなかった）、事務局よりも早く情報交換するのであれば活用して情報を共有してください。